

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600043		
法人名	社会福祉法人 黒潮福祉会		
事業所名	グループホーム 和夏		
所在地	高知県幡多郡黒潮町佐賀3179-7		
自己評価作成日	令和 4 年 6 月 27 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;ijigyosyoCd=3992600043-00&amp;serviceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;ijigyosyoCd=3992600043-00&amp;serviceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 7 月 5 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を180度のパノラマで望む高台に立地し、自然豊かな環境の中で、四季の景観を365日満喫して穏やかに過ごせる環境にある。同じ敷地内に同一法人の特別養護老人ホームや、デイサービスがあり、合同で行なう行事にも参加し、幅広く地域との交流ができる。緊急時等における事業所間の連携、協力体制も整っており、入居者の安全と豊かな暮らしを支援できる。又家族生活の維持を考えた取り組みとした家族宿泊も出来るようになっている。方針として「今日の笑顔、より明日の笑顔を求めて」とし、入居者皆様の尊厳を重視しながらプライバシー保護への職員教育に努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大パノラマの地だけに、内たる施設では、職員が広い視野で利用者をパノラマ感覚で見渡し、リスクが起こりやすい細部から管理し、また、利用者の気持ちになって、楽しめるように、ドライブの回数を増やし、地域と関われる時間を作ることに力を注いでいる。面会禁止の場合も、家族さんと会えないので、玄関席で10分程度の面会をしたり、クッキングセラピーや、職員のアイデアが起こり易くしたりして、職員が行動をアクティブに一日を熟している。管理者が自分の意見を押し通すと、職員が反発を起こし、失敗した経験から、手加減をしながら、任せていくことで、日々の活力が育成されている。70歳台の利用者で、携帯で毎日おしゃべりをする方がいて、電話できないと「電源が入らない」と、文句を職員に問いつける時もあった。居室を知った上での介護と、1週間に1度、看護師の医療との連携、そして、守衛さんの災害のバックアップも兼ね備え、納得がいく利用者の為の施設を広範囲からの視野から築いている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	<b>有限会社アウルメディカルサービス</b>	

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時から地域密着型の理念を作成しており、日頃より職員会などで職員全員が、その意味を共有し、実践に向けて取り組んでいる。	地域に貢献するという理念を忘れないために、玄関や事務所に掲示しているだけでなく、勤務表にも記載し、職員の目に留まりやすくしているとともに、ドライブ、散歩など地域の方との縁を深め、関係構築できるように、日々行動を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた立地条件の為、近隣との交流はないが、隣接の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターの利用者との交流や、町内の運動会や祭り、イベント見学に出かけて交流のきっかけ作りにも努めている。	以前は地域のイベントにも参加していたが、コロナで中止となっている。コロナ禍でもできることとして、初詣やお参り、季節のお花を見るためのドライブを、感染に気をつけながら行っている。また、民生委員が花を植え来られることで、継続した地域との付き合いができています。	利用者の作品をもって、公共の施設(消防署や警察署など)の身近な地域との繋がりを更に広げてはいかががでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と連携して、家族や地域の方々の相談窓口となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーである行政や家族、地域の代表から意見や要望が出されている。外部評価、その後の取り組みについても報告している。ホームへの理解も得て、双方向に意見を交わし、意見交換の記録も取っている。	利用者家族の他、介護保険課、民生委員、区長、地域包括支援センターが参加している。委員(行政)の意見が偏っていて、実地指導のような会議が行われている。	新しい推進委員のメンバーの門戸を広げて、今後のために、やわらかく広い視線を作ってみてはいかががでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター、住民課、介護課などと意見交換を交わし、施設の情報も報告し地域からの情報も聞いている。	運営推進会議に介護保険課からも2名が参加されていて、施設の身になってくれている。ときには辛口の意見も頂き、施設の向上に力添えを受けている。地域密着として顔の繋がりのある関係作りは十分に出来ていて、何でも語れる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には積極的に参加する体制であり、日常的にも勤務の中でも説明している。玄関の施錠は夜間の20時以降としている。	カンファレンスの時に身体拘束についての見直しを行っている。研修は、年2回、高齢者虐待委員会と合同で行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には積極的に参加し、職員会で参加出来なかった職員の為に再度勉強会を行ない学んでいる。日頃より利用者の尊厳について考え、正しい行動のもと介護にあたっている。虐待を見過ごす事のないよう、職員が互いに注意し合い取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会で成年後見制度について説明するなど、権利擁護の理解や尊厳の保持も含めて職員の周知徹底に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分説明して納得してもらうよう取り組んでいる。家族が県外の場合には、その後も連絡を取り合うなど、理解していただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は受け入れる姿勢を持ち今後の運営に繋げるように心がけている。家族来訪時には入所者の近況報告を行い、意見交換し、県外の家族には定期的に電話で報告し意見を聞く機会を作っている。日頃から入居者の方とはコーヒータイムの折意見を聞くことが出来ている。	利用者からは「お菓子が食べたい。」「おいしいものが食べたい」など食事に関する意見が多い。ご家族からは「歩かせてください」「身体を動かしてください」との要望があり、真摯に受け止め、ケアプランに反映して実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会では施設長も出席し、代表として連絡事項なども連絡されている。職員は日頃の業務に関する意見も出るなど共通認識が図られている。	職員会で直接、施設長に意見を言うことが出来ている。クッキングセラピーやドライブなどの行事以外にも、管理者と職員で話し合う機会が多く、その意見を管理者がまとめて形にして経営に活かしている。人員も落ち着き、有給休暇も取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を通じて代表者は職員の勤務状況を把握し、職員も働きやすい職場環境や人間関係も築くように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修には積極的に参加を心がけている。職員からの希望は取り入れられている。各自が技術の向上に努めている。日頃も各自の資質向上の為、代表者は協力の姿勢を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会に参加し、他の施設との意見交流や情報を聞く事で反省や参考に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族訪問時に、本人とご家族を交えて、不安や問題点を提案し解決方法を提案するなど信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面接時に情報収集を行い、ご家族の不安や要望を十分に聞きながら、生活支援の説明を行ない、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスや援助について、早期に希望に添った内容になるように計画している。入所時には特に家庭生活に近づけた希望や、施設ではどのような希望があるか、初期のサービスのプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を基本として、スタッフ入居者が共存し合う日々の個々の暮らしに付き添う事を心がけている。入居者さんにも出来る事はお手伝いして頂き、共通の話題から親しい関係作りを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡を取り、協力体制をもちながら、家族の立場も考え、又本人の気持ちを見守りながら利用者を支えている。スタッフとの関係も出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や電話がある。外部からの面会には交流がスムーズに出来るように心配りする事で地域との関係が継続されるように支援している。隣接の特養やデイサービスは日常的に出入りする事で、なじみの友人との関係作りを図っている。	毎日、携帯電話で家族と話されている方もいる。法人内のデイサービスの知り合いに会いに行ったり、地域の公園に出掛け、近所の方と話をしたりしている。地域を近くに感じられている中、長く勤めている職員も多く、馴染みの関係が至る所に築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす事が多く利用者同士の会話からも一つの家族としての関係が築かれている。孤立する事は全く見られずスタッフも側面的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も地域で再開する折に近況を話し合ったり、思い出話をする。又必要に応じ支援や相談もしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向に添えるように努めている。把握が困難な時は家族から情報を頂く事になっている。スタッフは日頃から関わりの中で意向や希望も聞きケアプランに反映されている。新規入所者にも希望を聞き取っている。	自分の意思を伝えられない方は、表情や動作で把握するようにしている。遠慮して本人から意見や意向が出ない場合は、家族に意見を聞いて情報収集し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階において、家族やケアマネ等関係者からの情報収集を行うと共に、入居後も聞き取り等を通じて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の流れや心身の状況、残存能力を把握し、常に心配りしている。就寝、起床時間もそれぞれの主体性に任せ寄り添った援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、三ヶ月のモニタリング、六ヶ月毎の評価、担当職員の意見、家族の要望も踏まえ、職員会で検討し、本人の状況に添った介護計画を作成している。	担当職員による意見がマンネリ化しないように、定期的に担当を変更している。職員会議前に担当職員とは、プランについてのすり合わせをして、利用者一人ひとりに合ったプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を客観的に把握しつつ、会話の内容なども個別に記入している。その記録や情報を元に職員間で現状を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一的なケアと日々の解決が求められるケアには、柔軟に対応する事を常に念頭に置き日々の業務にとり組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握したうえ、利用者がその都度参加できる体制を作り配慮し、何よりも安全な生活を保障した支援を心がけている。又、地域の婦人部の踊りや、生バンドの演奏など、豊かな暮らしの支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時点でかかりつけ医を伺い、継続も可能、協力医の変更も可能な説明をする。定期的な通院は管理者が同行し、受診結果は家族に連絡する。職員には情報の周知の為受診記録、引継ぎ帳で共有している。	かかりつけ医は、入居時に意向を聞いている。協力病院はあるが、今まで受診していた病院も継続利用できる体制が築けていて、受診は職員が送迎対応している。歯科については、往診で対応していて、口腔の大きさに心配りしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや体調の変化は管理者に報告し、週1回看護師訪問の際に相談している。職員は日常の関わりの中で、常に気を配り報告を行い早期に対応できるように取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には家族や病院関係者との情報交換や現状に向けての調整などに努めている。又退院に向けての調整など、ソーシャルワーカーとも連絡を取りながら、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化に応じて早い段階から話し合いを行なう事、終末期の際ご家族の希望の聞き取り等を入居の際申し合わせている。過去に看取り支援を行なった例もある、主治医家族との連携も取れていた。今後も家族の希望時に主治医の協力が得られた場合には、職員間で共有し体制を整えていく。	以前は看取り介護も行っていたが、現在は、グループ内の看護師が週に1回訪問して医療の助言をしていただいている。時間的なことから、看取り介護を行うのが難しいが、看取り時期の経験や心情的豊かさを活かし、充実した介護となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急性が高いと判断した場合や、事前に予測を立てる事などその時々での対処方法は日々の業務の中での話し合いや、職員会を通じて周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年計画の元、特養と協力体制を取り、地震、火災訓練を行なっている。火災時には立地的にも近隣の協力は難しいが、消防、地区長と検討した結果災害時はお互いに協力体制を図る事になっている。施設には非常用食材の備蓄も行なっており、共有していく。	年2回は、地震・火災想定避難訓練を行っている。隣接特養の協力体制も整っている。消防にも訓練への参加依頼をしているが、コロナ禍のため参加できていないので、職員と情報収集をして、検討している。非常用の備蓄食やカセットコンロも準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権や尊厳を保ち介護を行なう、個々の生活歴や人格を大切に適切な言葉かけをする事を常に職員会にて周知している。適切でない言葉かけは職員間で注意しあっている。マニュアルに沿って個人情報や他人に漏らさない事、プライバシー保護についても徹底している。	利用者は「～さん」と呼んでいる。排泄の失敗があった時は、他の利用者に気付かれないよう尊厳を守って対応している。居室前の表札を個人名にすると間違えてしまうことがあって、利用者が分かりやすいように以前の仕事にかかわる表札に変更していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の支援を基準に、傍らで内面の思いを感じる事、会話を通じて利用者の方に自己決定をしてもらう事が出来るように、日々の場面作りに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活空間の中で、入居者さんが安心して生活できるように、入居者の方のペースを優先し、見守る支援に取り組んでいる。又笑顔でいられるように		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた着衣や希望に応じて基礎化粧品も購入するなどの支援を行なっている。定期的に美容師がホームに来て散髪を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は楽しいものである事、美味しいものを提供し、献立は希望を聞く、季節感を取り入れた食事を心がけている料理の下ごしらえやおやつ後の片付けを手伝ってもらっている。コロナ禍で職員と一緒に食事は毎回は行えていない。	クッキングセラピーを毎月実施している。食材は地元のお店で購入し、朝・昼は手作りで提供している。利用者とかかわる時間を作るため、夕食だけは外部注文にしたが、珍しいものが食べれると喜ばれている。誕生日ケーキも、地元のケーキ屋さんで購入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の水分摂取やコーヒータイムなどを通じて1300mlを目安に摂取確保している。飲みやすい物を提供し、栄養面では栄養補助食品で補うなど個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に適した歯ブラシを使用し、毎食後の口腔ケアでは義歯や残歯の清潔保持についても可能な限り本人で行えるよう誘導や声かけを援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、個々に適した言葉がけを用いて全員トイレでの排泄を実施している。夜間も入居者の状況に応じ、トイレ誘導を行っている。残存能力維持にもトイレでの生活リハビリを考えている。	おしめは全く利用せず、トイレ誘導で対応している。利用者毎に排泄パターンを把握し、誘導している。トイレを失敗された時は、利用者の尊厳を大切にしながら自立を目指し、出来ないところは、少しづつ手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給や十分に水分を取る事、又献立の工夫やおやつ時間に牛乳を飲用していただいている。毎日2回のラジオ体操のども行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	少なくとも3日1回は入浴しているが、必要に応じて清拭対応やシャワー浴を行なっている。入浴の際の見守りなど個人の状況に合わせた援助も行っている。基本的には午後を入浴としている。	入浴は、お誘いからお風呂上りまで、全てマンツーマンで対応している。予定以外にお風呂に入りたいと言われる方にも個別で対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間も入居者個々に異なり、朝まで安眠できる方、トイレの回数が多い方などそれぞれに合わせた見守り体制を取っている。休息はロビーをいつでも自由に利用でき、来られた際は対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の閲覧や、疾病と薬剤の関係など必要に応じて職員に指導している。服用確認の徹底や、誤嚥防止の為職員二人で確認、服薬チェック表を使用している。処方変更の際の引継ぎなども徹底している。急用的な投薬には引継ぎ帳や受診記録で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や計算、ぬり絵が得意な方や家庭で行なっていた家事などの得意な場面で発揮できるように日々支援している。又特養で行なう行事等参加できる状況の時には全員参加して楽しんでいる。毎日日替わりでレクを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会禁止解除であれば併設の特養には何かにつけて出かけている。又日常的に散歩したり四季折々の花見や行事、買い物にも出かけている。	敷地内や隣の特養まで散歩に出かけている。気候の悪い時も、いつでも外出するため、施設内で歩行訓練もしている。施設が高台にあり、歩いて公園まで出掛ける事が危ないので、ドライブを計画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物代行は行なっているが、小銭の管理をしている方へは支払いや残金の確認など見守りながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持し、自由に家族に連絡をとったりしている。家族との連絡の際には入居者の方に電話を取りついたりしている。又親類からの手紙が届く時もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した共有のロビーで、キッチン、浴室全てから太平洋を望める。出来る限り四季をかんじれるように、ホールの壁紙を四季ごとに張り替えたり七夕、クリスマス、正月等の飾りつけも行ない、季節を感じて頂いている。	季節に応じた壁画作りをして、施設内でも四季を楽しめる事が利用者の喜びとなっている。窓も大きく、ソファに座ったままでも地平線を望められ、リビングから一歩踏み出したら広大なウッドデッキもあり、より開放的なパノラマ空間を味わうことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は一箇所にいるのではなく、自室、ロビーでくつろぐなど、思い思いの場所で語り合いながら、一人でも行動ができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方の希望を聞き、生活の延長で過ごせるように心がけている。又それぞれの住みやすさを考えた援助を行っている。家族の写真を置く、使っていた物を持って来ているなどしている。	家から馴染みの家具を持ち込まれていたり、子どもや孫の写真を飾っていて、家族との繋がりを忘れないようにしている。備え付けのベッドは、ギャッジタイプと畳タイプがあり、利用者一人ひとりに合わせて調整して快適な居室に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本は安全安心な介護である事を忘れずに、できる事や可能な事をいかにして、残されている機能が発揮できるように、生活の援助を行っている。		